

令和元年9月30日



10月 釜小だより

横浜市立釜利谷小学校

釜小Web <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamariya/>

半年を振り返って、半年を見据えて

校長 菊池 幸博

4月に釜小だより紙面をお借りして自己紹介ならびにあいさつをさせていただいて半年が過ぎようとしています。着任に際し、本校の学校教育目標である「**たのしい わたしの学校**」実現のために掲げた大きな柱は「しっかりあいさつ」「いじめを、しない・させない・ゆるさない」という二つでした。子どもたちと、保護者の皆様と、地域の方々とそして教職員でこの柱を実践しながら歩んできたつもりではございますが、皆様の目には釜利谷小学校のこの半年、どのように映っていらしたでしょうか。様々なご意見については、年末近くに学校アンケートを実施する予定ですので、そちらにお書きいただければ幸甚です。

さて、校内は前期のまとめということで、学習が一つの区切りを迎えます。先日の授業参観でもご覧いただいたように発表形式でそれぞれの力を伸ばすようにしたり、レポートやあるいは寸劇などでまとめたりと、教科によって様々な形がありました。このような多様な学習形態の中で子どもたちは、「誰に」「何を」「どのように」伝えたらよりよいのだろうか試行錯誤を重ねていきます。まさにこれが「深い学び」へとつながり、「生きてはたらく」学習となっていくのです。

10月15日(火)から令和元年度後期がスタートします。学校づくりのために掲げた二つの柱を継続させつつ、三つ目の柱である「自分から学ぶ」を打ち出していきたいと考えています。当然のことながら、学校の中心は子どもたちです。その子どもたちが学校で最も多く過ごす時間は「授業」です。教職員は、子どもたちに「今日は何を学ぶのかな、学ぼうかな」と思わせるような展開をめざしながら、授業づくりのために様々な研修を積んでおります。子どもたちにも「自分から学ぶ」姿勢を大切にしてほしいと願っていますし、こうした思いをもてることが「**たのしい わたしの学校**」につながるのだと信じております。

めあてを明確にし、本物に触れたり体験を通したりといった動きや流れの中で力を伸ばし高めていく。そのためには、今後ますます地域の方々や保護者の皆様のご理解とご協力が欠かせないものとなってきます。前期も多くの皆様に支えていただきましたが、後期もどうぞよろしく願いいたします。

